

# 学際的科学としての言語学研究

吉田光演教授退職記念論集

田中雅敏・筒井友弥・橋本将編  
定価 12,000 円 + 税

一筋縄ではいかない言語の面白さに、  
様々な手法でアプローチしていくこと。  
学問の間の壁を越えようとする試みの 1 冊。

本書は、広島大学大学院総合科学研究科教授吉田光演先生が、2020 年 3 月に定年を迎えられるに際し、国内外のドイツ語学・言語学研究者が寄稿した記念論文集である。吉田教授は、言語学者・教育者として多大な功績を残され、多くの言語を対象に専門分野は多岐にわたる。本書に収録された論文は、音韻論、統語論、意味論、語用論から言語教育、コーパス言語学、通訳理論まで様々な分野に広がっており、言語学研究的学際性を例証するものである。



## シリーズ ドイツ語が拓く地平

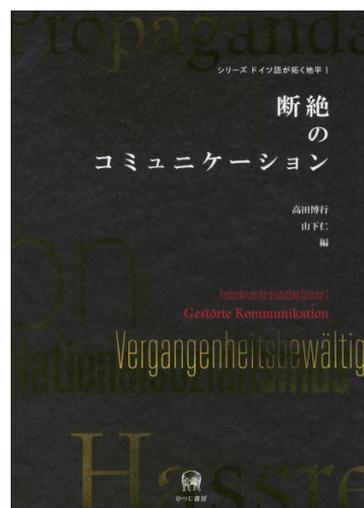
### 1 断絶のコミュニケーション

高田博行・山下仁編  
定価 3,800 円 + 税

ナチことばに隠された Hypertexte 性は何を呼び起こすのか？  
政治的言語は断絶するしかないのか？  
トルコ系移民の葛藤するドイツ語、ヘイトスピーチの問題—

ドイツ語という言語を切り口に、社会、歴史、文化の問題を論じるシリーズ第 1 巻。第 1 部「ナチズムと言語」では、言語学、メディア学、芸術論の観点からナチズムを分析。現代に至るナチズムの言説を再検討する。第 2 部「現代社会と言語」では、報道文や移民の言語、ヘイトスピーチ、また現代社会でそもそもコミュニケーションは可能かという問題に切り込む。

執筆者：大宮勘一郎、川島隆、佐藤卓己、高田博行、田中克彦、田中翔太、田中慎、田野大輔、野呂香代子、初見基、山下仁



近刊

### 2 ドイツ語と向き合う

井出万秀・川島隆編  
予価 4,000 円 + 税

複数の言語のはざままで生きる人々の経験のなかで  
ドイツ語がいかなる役割を果たしてきたのか。  
多和田葉子氏のエッセイも収録。

ドイツ語という言語を切り口に、社会、歴史、文化の問題を論じるシリーズ第 2 巻。第 1 部「異言語に生きる」では、複数の言語のはざままで生きる人々の経験のなかでドイツ語が果たしてきた役割を見る。第 2 部「ドイツ語の主題と変奏」では、標準語、正書法、文法など制度面の転換点に光をあて、ドイツ語が今の姿になるまでのプロセスを俯瞰する。

執筆者：井出万秀、川島隆、黒田亨、佐藤恵、真田治子、大喜祐太、高田博行、多和田葉子、中直一、浜崎桂子、美留町義雄、村瀬天出夫

